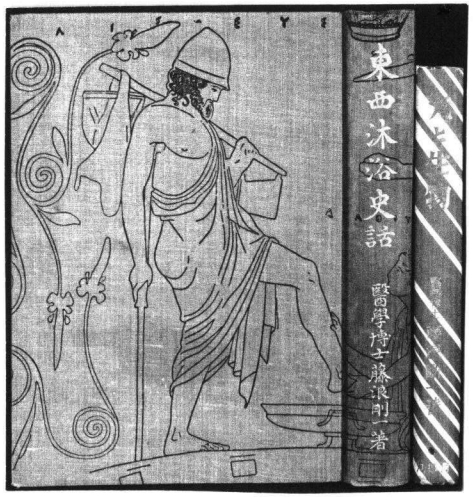
藤浪剛一（ふじなみかういち）　醫史學者、醫學博士。明治十二年六月七日愛知縣生れ、昭和十七年十一月二十九日歿（一八八〇―一九四二）。號容山學人、乾々齋。岡山縣醫學專門學校卒。明治四十年ウィーン大學に留學、放射線醫學を學んで日本に於ける斯學專攻の嚆矢となった。爾來順天堂病院レントゲン部長、慶應義塾大學醫學部教授としてレントゲン專門醫の養成に從事。また溫水療法に就いても造詣深く、その著『東西沐浴史話』（昭和六年五月二十五日、增補版・十九年一月二十五日京都・人文書院）は能く知られたる書。一方先哲の顯彰にも努め、宇田川榕庵の事蹟を初めて明らかにした他、古醫書の蒐集では富士川游と日本に於ける雙璧と目される。病理學者藤浪鑑（あきら）の弟。

他に『人類と婚姻の歷史』（織田正滿共著、大正元年十一月二十三日博文館）、『光と生物』（大正七年四月二十五日朝香屋書店、のち昭和十八年八月五日力書房）、『日本衞生史』（昭和十七年十月三十一日日新書院）等。『藤浪剛一追悼錄』（昭和十八年九月二十九日藤浪和子編刊）がある。